

平成 14年 3月期 決算短信 (連結)

平成 14年 5月 22日

上場会社名 新ダイワ工業株式会社
 コート番号 6320
 (URL http://www.shindaiwa.co.jp)

上場取引所 東大
 本社所在都道府県 広島県

問合せ先 責任者役職名 取締役管理本部長
 氏名 原田 隆司

TEL (082) 849 - 2001

決算取締役会開催日 平成 14年 5月 22日

親会社名 (コート番号: -)

親会社における当社の株式保有比率: - %

米国会計基準採用の有無 無

1. 14年 3月期の連結業績 (平成 13年 4月 1日 ~ 平成 14年 3月 31日)

(1)連結経営成績

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | |
|---------|--------|-----|------|------|------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 14年 3月期 | 18,354 | 7.2 | 21 | | 270 | |
| 13年 3月期 | 19,786 | 2.5 | 926 | 21.2 | 708 | 23.8 |

| | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | 潜在株式調整 後1株当たり当 期純利益 | 株主資本 当期純利益率 | 総資本 経常利益率 | 売上高 経常利益率 |
|---------|-------|-----|----------------|---------------------------|----------------|--------------|--------------|
| | 百万円 | % | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 14年 3月期 | 559 | | 24.88 | | 7.2 | 1.5 | 1.5 |
| 13年 3月期 | 299 | 7.5 | 12.87 | | 3.7 | 3.8 | 3.6 |

(注) 持分法投資損益 14年 3月期 3 百万円 13年 3月期 - 百万円

期中平均株式数 (連結) 14年 3月期 22,464,290株 13年 3月期 23,242,493株

会計処理の方法の変更 有

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2)連結財政状態

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|---------|--------|-------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 14年 3月期 | 17,652 | 7,503 | 42.5 | 336.52 |
| 13年 3月期 | 18,516 | 8,098 | 43.7 | 359.53 |

(注) 期末発行済株式数 (連結) 14年 3月期 22,295,532 株 13年 3月期 22,524,703 株

期末自己株式数 14年 3月期 336,068 株 13年 3月期 106,897 株

(3)連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|---------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 14年 3月期 | 35 | 161 | 316 | 1,204 |
| 13年 3月期 | 2,265 | 1,083 | 1,048 | 988 |

(4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 3 社 持分法適用非連結子会社数 - 社 持分法適用関連会社数 1 社

(5)連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結 (新規) 1 社 (除外) - 社 持分法 (新規) 1 社 (除外) - 社

2. 15年 3月期の連結業績予想 (平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

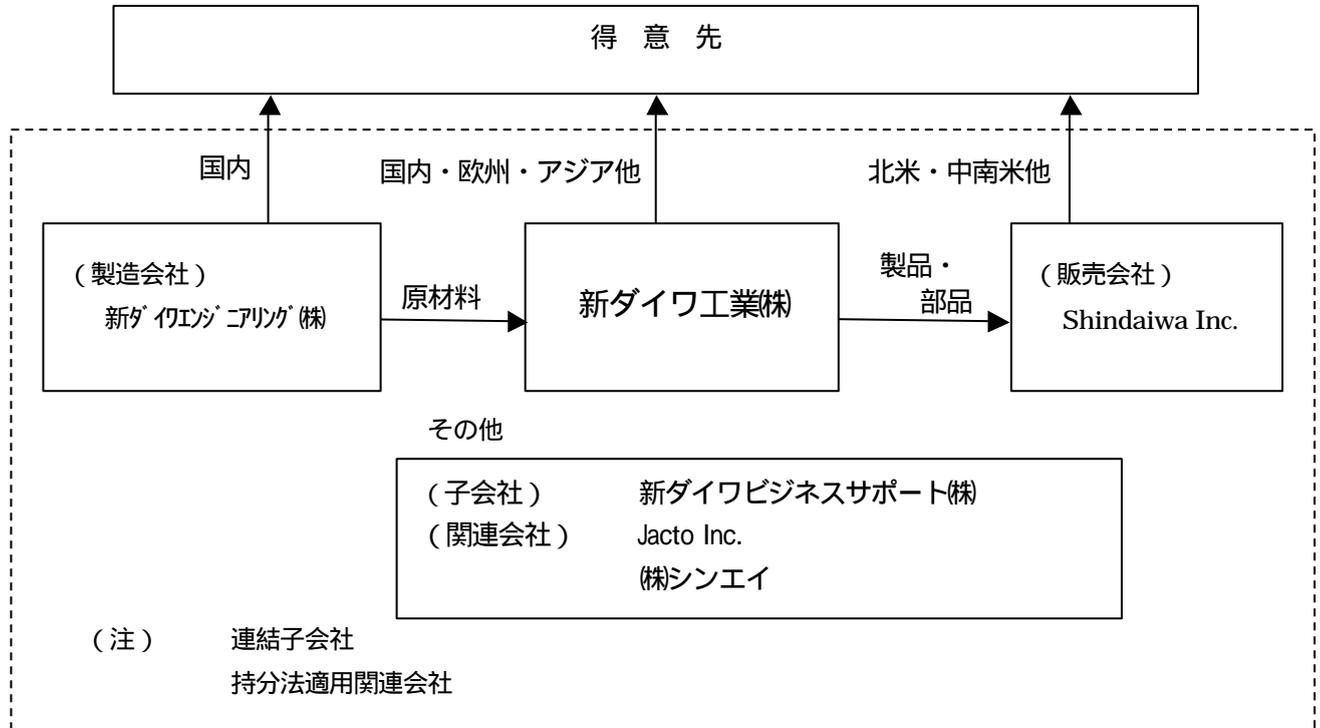
| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----|--------|------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 中間期 | 9,130 | 100 | 30 |
| 通期 | 18,580 | 600 | 300 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 13円 46銭

上記の予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。

(1) 企業集団の状況

当社グループは、新ダイワ工業(株)(当社)および子会社3社、関連会社2社で構成され、主な事業は、農・林業用機械(刈払機・エンジンチェンソーなど)建設・土木・鉄工用機械(発電機・溶接機・エンジンカッターなど)の製造ならびに販売であります。関連会社のうち持分法適用会社は1社です。



(2) 経営方針

1. 経営の基本方針

当社グループは、「プロ志向の産業機器メーカーとして、世界中の働く人々に満足と信頼そして感動を与え続けること」を企業理念とし、お客様への商品とサービスの提供に努めており、創業以来、『創意と努力』を全ての規範として『仕事に役立つ道具づくり』を使命と感ずるとともに、お客様の評価をその商品の価値と考えております。

また、透明で質の高い経営で、株主の皆様のご期待にこたえるとともに、社会から信頼される企業市民であり続けることを本意としております。

2. 利益配分に関する基本方針

当社の利益配分に関する考え方は、財務体質や将来の事業展開等を総合的に勘案しながら、安定的に配当を継続することを基本としております。

3. 中期的な経営戦略

当社グループを取り巻く経営環境は、グローバルかつボーダーレスの企業間競争がますます激化するなど大きく変化しております。このような状況の下、売上基盤の整備、コスト基盤の強化、資産配分の最適化、および開発商品の高付加価値化、これらを重点的に推進して行くことによりエクセレントカンパニー化を目指します。

4. 会社の対処すべき課題

当社グループは、メーカーとしての原点である「顧客満足視点でのモノづくり」に立ち返り、『キャッシュ・フロー視点での業務改革』と『付加価値の創出と追求』とを基軸とした次の項目を重点施策として、戦略的かつ積極的に経営変革を推進し、収益力の改善による業績の回復に向けて全社を挙げて取り組む所存であります。

- 連結経営の充実によるグループ企業としての総合力の発揮
- 営業・開発・生産が一体となった新商品づくりによる開発技術力の強化
- 市場品質の向上、供給リードタイムの短縮、コスト競争力の強化
- 「売れる仕組み」の確立や新分野への進出や創出による営業効率の重視
- 意思決定の迅速化と実力・成果主義の徹底による業務執行機能の強化
- 経営資源の効率化・有効活用
- 不測の事態に対するリスク管理体制の強化

(3) 経営成績

1. 当期の概況

当期のわが国経済は、公共投資の減少やデフレ経済が進行するなか、民間設備投資が一段と落ち込むとともに製造業の輸出や生産が低迷し、雇用や所得環境への不安感から個人消費にも回復の気配もなく、不良債権処理に伴う株価の下落や大型企業の倒産も企業業績の悪化に拍車をかけるなど、景気は極めて厳しい状況で推移いたしました。

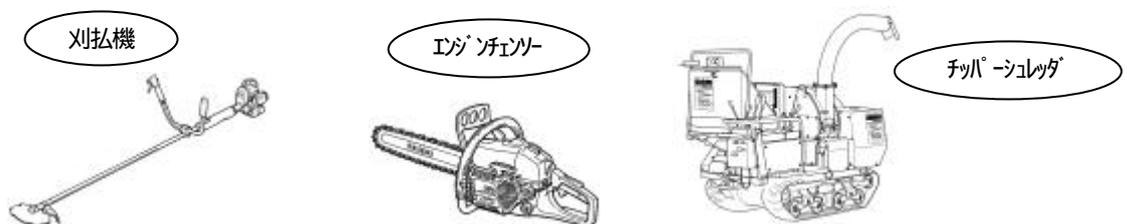
一方、海外でも、米国経済の減速により世界景気が冷え込むなか、9月の米国同時多発テロを引き金とした世界経済の混迷は、下期以降の回復を期待した輸出企業にとっては大きな打撃となりました。

このような経済情勢のもとで、当社グループの売上高は183億54百万円で前期に比べて14億33百万円の減少(減少率7.2%)となりました。このうち国内は108億53百万円で前期に比べて10億78百万円の減少(減少率9.0%)、輸出は75億01百万円で前期に比べて3億54百万円の減少(減少率4.5%)となりました。

損益面におきましては、全社を挙げて経営の効率化・合理化に努力を重ね業績向上を目指しましたものの、売上の減少を吸収するには至らず、また、投資有価証券評価損および退職給付信託設定損失などにより、経常損失2億70百万円、当期純損失5億59百万円を計上する結果となりました。

商品区分別の営業の状況は次のとおりであります。なお、事業の種類別セグメント情報は作成しておりません。

農・林業用機械（刈払機、エンジンチェーンソー、チップシュレッダなど）



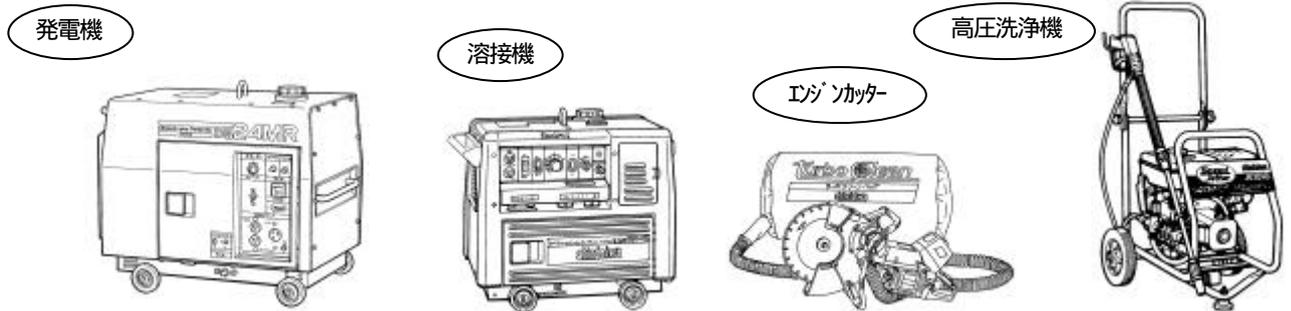
国内における農林市場は、減反強化の煽りや用材・チップの需要低迷で市場には引続き活力感はありませんでした。このような状況下で、当社は新分野として成長しつつあるグリーンメンテナンス市場への販売強化を図り、売上の維持拡大に注力いたしました。売上高は22億円で前期に比べて4億18百万円の減少(減少率16.0%)となりました。

海外では、最大市場である米国がIT不況から立ち直るかにみえた矢先の同時多発テロ事件により総体的に購買意欲が低下するなか、カリフォルニア州排ガス二次規制に対応した当社初の新型4サイクルエンジンをもって高い技術力をアピールいたしました。売上高は55億11百万円で前期に比べて3億60百万円の減少(減少率6.1%)となりました。

この結果、農・林業用機械全体の売上高は、77億11百万円で前期に比べて7億78百万円の減少(減少率9.2%)

でありました。

建設・土木・鉄工用機械（発電機、溶接機、エンジンカッター、高圧洗浄機など）



国内においては、業界企業の大型倒産に象徴される構造不況が一層色濃くなるなか、特殊樹脂ボディ採用による軽量化が評価された防音型小型溶接機や大型発電機シリーズなどの新商品投入により、新たな販路の開拓が進みましたものの、売上高は60億9百万円で前期に比べて5億65百万円の減少(減少率8.6%)となりました。

海外においては、欧州地域に対して新型エンジンカッターを投入するとともに、アジア地域や北米地域に対しては大型発電機やディーゼル溶接機の販売ルート開拓に注力した結果、売上高は1億26百万円で前期に比べて63百万円の増加(増加率99.6%)となりました。

この結果、建設・土木・鉄工用機械全体の売上高は、61億35百万円で前期に比べて5億2百万円の減少(減少率7.6%)でありました。

部品（チップソー、ダイヤモンドブレード、ソーチェンなど）

国内においては、消耗部品の需要減退が進むなか、取扱い品目の充実や拡販諸策を推進してまいりましたが、売上高は21億75百万円で前期に比べて80百万円の減少(減少率3.6%)となりました。

海外では、前期に欧州へ大量供給した部品が市場全体に行渡り、売上高は18億64百万円で前期に比べて58百万円の減少(減少率3.0%)となりました。

この結果、部品全体の売上高は、40億39百万円で前期に比べて1億38百万円の減少(減少率3.3%)でありました。

その他（修理、下取品など）

売上は全て国内を対象としており、4億69百万円で前期に比べて15百万円の減少(減少率3.1%)でありました。

2. 次期の見通し

今後の見通しといたしましては、海外では、米国経済の回復基調により世界経済は緩やかに回復していくものと期待されます。しかしながら、国内においては、企業の収益悪化や個人消費の低迷などにより需要の回復力は弱く、景気の先行きは依然として深刻な状況が続くものと思われまます。

次期の業績は、売上高185億80百万円で当期に比べて2億26百万円の増加(増加率1.2%)を予想しております。このうち、国内の売上高は、販売基盤の強化や商品ラインアップの充実などにより113億円で当期に比べて4億47百万円の増加(増加率4.1%)を予想しております。また、海外の売上高は、72億80百万円で当期に比べて2億21百万円の減少(減少率2.9%)を予想しております。

損益面におきましては、経常利益は6億円で当期に比べて8億70百万円の増加、当期純利益は3億円で当期に比べて8億59百万円の増加を予想しております。

上記金額には、消費税等は含まれておりません。以下、同様であります。

比較連結貸借対照表

(金額単位:百万円)

| 科 目 | 当 期 | | 前 期 | | 比較増減 |
|-----------------|----------------|-------|----------------|-------|-------|
| | 平成14年 3月31日 現在 | | 平成13年 3月31日 現在 | | |
| | 金 額 | 比 率 | 金 額 | 比 率 | |
| 流 動 資 産 | 10,833 | 61.4 | 10,856 | 58.6 | 23 |
| 現金及び預金 | 1,204 | | 988 | | 216 |
| 受取手形及び売掛金 | 5,785 | | 6,795 | | 1,010 |
| たな卸資産 | 2,812 | | 2,568 | | 244 |
| 未収入金 | 376 | | 262 | | 114 |
| 繰延税金資産 | 636 | | 306 | | 330 |
| その他 | 140 | | 56 | | 85 |
| 貸倒引当金 | 121 | | 119 | | 2 |
| 固 定 資 産 | 6,819 | 38.6 | 7,660 | 41.4 | 841 |
| 有形固定資産 | 4,816 | 27.3 | 5,077 | 27.4 | 260 |
| 建物及び構築物 | 2,162 | | 1,644 | | 518 |
| 機械装置及び運搬具 | 266 | | 318 | | 52 |
| 工具・器具及び備品 | 332 | | 374 | | 43 |
| 土地 | 1,981 | | 2,020 | | 39 |
| 建設仮勘定 | 76 | | 720 | | 644 |
| 無形固定資産 | 79 | 0.4 | 71 | 0.4 | 8 |
| 投資その他の資産 | 1,923 | 10.9 | 2,513 | 13.6 | 589 |
| 投資有価証券 | 1,169 | | 1,653 | | 483 |
| 長期貸付金 | 139 | | 163 | | 25 |
| 前払年金費用 | 17 | | - | | 17 |
| 繰延税金資産 | 137 | | 142 | | 5 |
| その他 | 629 | | 679 | | 50 |
| 貸倒引当金 | 169 | | 125 | | 44 |
| 資 産 合 計 | 17,652 | 100.0 | 18,516 | 100.0 | 864 |
| 流 動 負 債 | 9,438 | 53.5 | 9,473 | 51.2 | 35 |
| 買掛金 | 4,384 | | 4,833 | | 450 |
| 短期借入金 | 3,532 | | 2,817 | | 715 |
| 未払金 | 686 | | 655 | | 31 |
| 未払費用 | 436 | | 664 | | 228 |
| 未払法人税等 | 59 | | 260 | | 201 |
| 未払消費税等 | 5 | | 39 | | 34 |
| 前受金 | 174 | | 32 | | 142 |
| 預り金 | 86 | | 139 | | 53 |
| その他 | 76 | | 32 | | 44 |
| 固 定 負 債 | 711 | 4.0 | 945 | 5.1 | 234 |
| 長期借入金 | 587 | | 823 | | 236 |
| 退職給付引当金 | - | | 15 | | 15 |
| 役員退職給与引当金 | 124 | | 107 | | 17 |
| 負 債 合 計 | 10,149 | 57.5 | 10,418 | 56.3 | 269 |
| 資 本 金 | 2,833 | 16.1 | 2,833 | 15.3 | - |
| 資本準備金 | 2,976 | 16.9 | 2,976 | 16.1 | - |
| 連結剰余金 | 1,686 | 9.6 | 2,379 | 12.8 | 693 |
| その他有価証券評価差額金 | 29 | 0.2 | 110 | 0.6 | 81 |
| 為替換算調整勘定 | 119 | 0.7 | 52 | 0.3 | 67 |
| 自己株式 | 82 | 0.5 | 31 | 0.2 | 50 |
| 資 本 合 計 | 7,503 | 42.5 | 8,098 | 43.7 | 596 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 17,652 | 100.0 | 18,516 | 100.0 | 864 |

比較連結損益計算書

(金額単位:百万円)

| 科 目 | 当 期 | | 前 期 | | 比較増減 |
|-----------------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|-------|
| | 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日 | | 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日 | | |
| | 金 額 | 比 率 | 金 額 | 比 率 | |
| 売 上 高 | 18,354 | 100.0 | 19,786 | 100.0 | 1,433 |
| 売 上 原 価 | 12,899 | 70.3 | 13,584 | 68.7 | 686 |
| 売上総利益 | 5,455 | 29.7 | 6,202 | 31.3 | 747 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,476 | 29.8 | 5,276 | 26.6 | 200 |
| 営業利益(損失) | 21 | 0.1 | 926 | 4.7 | 947 |
| 営業外収益 | 116 | 0.6 | 166 | 0.8 | 50 |
| 受取利息 | 19 | | 33 | | 14 |
| 受取配当金 | 6 | | 37 | | 31 |
| 損害賠償和解金 | 20 | | - | | 20 |
| その他 | 71 | | 96 | | 25 |
| 営業外費用 | 365 | 2.0 | 383 | 1.9 | 19 |
| 支払利息 | 54 | | 61 | | 8 |
| 売上割引 | 26 | | 16 | | 10 |
| 債権売却手数料 | 23 | | 13 | | 10 |
| 為替差損 | 167 | | 260 | | 93 |
| デリバティブ評価損 | 76 | | 32 | | 44 |
| その他 | 20 | | 1 | | 19 |
| 経常利益(損失) | 270 | 1.5 | 708 | 3.6 | 978 |
| 特別利益 | 86 | 0.5 | 3 | 0.0 | 83 |
| 固定資産売却益 | 86 | | 0 | | 86 |
| 投資有価証券売却益 | - | | 2 | | 2 |
| 関係会社出資金売却益 | - | | 1 | | 1 |
| 特別損失 | 638 | 3.5 | 52 | 0.3 | 586 |
| 固定資産除却損 | 73 | | 16 | | 58 |
| 固定資産売却損 | 38 | | - | | 38 |
| 投資有価証券評価損 | 247 | | 15 | | 232 |
| 保険積立金評価損 | - | | 22 | | 22 |
| 退職給付信託設定損失 | 280 | | - | | 280 |
| 税金等調整前当期純利益(損失) | 822 | 4.5 | 659 | 3.3 | 1,481 |
| 法人税,住民税及び事業税 | 109 | | 407 | | 298 |
| 法人税等調整額 | 372 | | 47 | | 325 |
| 当期純利益(損失) | 559 | 3.0 | 299 | 1.5 | 858 |

比較連結剰余金計算書

(金額単位:百万円)

| 科 目 | 当 期 | | 前 期 | |
|-------------|---------------------------|-------|---------------------------|-------|
| | 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日 | | 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日 | |
| 連結剰余金期首残高 | 2,379 | 2,379 | 2,136 | 2,136 |
| 連結剰余金増加高 | | | | |
| 子会社売却に伴う増加額 | - | - | 62 | 62 |
| 連結剰余金減少高 | | | | |
| 1.配当金 | 113 | | 118 | |
| 2.役員賞与 | 22 | | - | |
| 取締役賞与 | 20 | | - | |
| 監査役賞与 | 2 | 134 | - | 118 |
| 当期純利益(損失) | | 559 | | 299 |
| 連結剰余金期末残高 | | 1,686 | | 2,379 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(金額単位:百万円)

| 科 目 | 当 期 | 前 期 |
|---------------------------|----------------|----------------|
| | 平成14年 3月31日 現在 | 平成13年 3月31日 現在 |
| | 金 額 | 金 額 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 822 | 659 |
| 減価償却費 | 394 | 364 |
| 退職給付引当金増加(減少)額 | 15 | 15 |
| 役員退職給与引当金増加(減少)額 | 17 | 18 |
| 貸倒引当金増加(減少)額 | 38 | 12 |
| 受取利息及び配当金 | 25 | 70 |
| デリバティブ評価損(評価益) | 44 | 32 |
| 為替差損(差益) | 24 | 114 |
| 支払利息 | 54 | 61 |
| 固定資産売却益 | 86 | 0 |
| 投資有価証券売却益 | - | 2 |
| 投資有価証券評価損 | 247 | 15 |
| 退職給付設定損失 | 280 | - |
| 固定資産除却損 | 73 | 16 |
| 固定資産売却損 | 38 | - |
| 保険積立金評価損 | - | 22 |
| 役員賞与支払額 | 22 | - |
| 売上債権の(増加)減少額 | 1,076 | 1,785 |
| たな卸資産の(増加)減少額 | 198 | 14 |
| 仕入債務の増加(減少)額 | 646 | 352 |
| 未払消費税の増加(減少)額 | 12 | 17 |
| その他 | 10 | 139 |
| 小計 | 401 | 2,557 |
| 利息及び配当金の受取額 | 38 | 57 |
| 利息の支払額 | 55 | 64 |
| 法人税等の支払額 | 349 | 285 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 35 | 2,265 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 422 | 971 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 238 | 4 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 28 | 124 |
| 投資有価証券の売却による収入 | - | 55 |
| 子会社の範囲変更に伴う子会社出資金の譲渡による収入 | - | 1 |
| 出資金の払い戻しによる収入 | 2 | 1 |
| 貸付けによる支出 | - | 5 |
| 保険積立金の積み立てによる支出 | 38 | 91 |
| 保険積立金の払い戻しによる収入 | 87 | 42 |
| 預け金の払い戻しによる収入 | - | 5 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 161 | 1,083 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 | 926 | 370 |
| 長期借入金返済による支出 | 947 | 456 |
| 長期借入れによる収入 | 500 | 183 |
| 自己株式の取得による支出 | 53 | 291 |
| 自己株式売却による収入 | 2 | 5 |
| 配当金の支払額 | 112 | 118 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 316 | 1,048 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 27 | 29 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | 216 | 163 |
| 現金及び現金同等物期首残高 | 988 | 825 |
| 現金及び現金同等物期末残高 | 1,204 | 988 |

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

子会社は全て連結しております。連結子会社は Shindaiwa Inc.、新ダイワエンジニアリング(株)、新ダイワビジネスサポート(株)の3社であります。このうち、新ダイワビジネスサポート(株)については、新たに設立したことにより当期より連結子会社に含めることとしております。また、関連会社は、Jacto Inc.、(株)シンエイの2社であります。

2. 持分法の適用

関連会社2社のうち Jacto Inc. に対する投資について持分法を適用しております。なお、(株)シンエイは、当期純損益及び連結剰余金に及ぼす影響は軽微であり、全体としての重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の決算日等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と同一であります。

4. 会計処理基準に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

・時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ・・・時価法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

提出会社及び国内子会社は

・貯蔵品は先入先出法による原価法

・商品、製品、半製品、原材料、仕掛品は総平均法による原価法

在外子会社は、後入先出法による低価法

(会計処理方法の変更)

商品の評価基準及び評価方法については、従来、「先入先出法による原価法」を採用してきましたが、当期から「総平均法による原価法」に変更いたしました。

この変更は、当期に商品の購買機能を原材料と同様に購買チームに統合し、原材料と同じ管理体制となったことに伴い、評価方法を統一し、業務の効率化を図るために行ったものであります。

この変更により、前期と同一の方法によった場合に比べ、売上総利益は、15百万円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前当期純損失は、それぞれ15百万円増加しております。

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

提出会社及び国内子会社は、主として定率法によっております。

耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

少額減価償却資産

提出会社及び国内子会社は、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却によっております。

無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しております。

会計基準変更時差異については、10年による均等額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(15年)による定額法により費用処理しております。

数理計上額の差異は、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(15年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌日より費用処理することとしております。

役員退職給与引当金

役員への退職金の支払いに備えるため、提出会社の規定に基づく期末要支給額を計上しております。

(4)重要なリース取引の処理方法

リース取引の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

(5)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

| (ヘッジ手段) | (ヘッジ対象) |
|---------|-----------|
| 金利スワップ | 借入金の利息 |
| 為替予約 | 外貨建金銭債権債務 |

ヘッジ方針

当社グループは借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、また、為替変動リスクを回避する目的で為替予約を行っております。ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップについては、特例処理を採用しているため有効性の評価を省略しております。

また、為替予約についても、振当処理を行っているため有効性の評価を省略しております。

(6)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

提出会社及び国内子会社は、消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

5. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、臨時引き出し可能な預金、及び容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

注記事項

【連結貸借対照表関係】

| | | |
|------------------------------|--|--|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | (当 期) 8,066 百万円 | (前 期) 8,823 百万円 |
| 2. 担保に供されている資産 | | |
| 建物 | (当 期) 1,090 百万円 | (前 期) 1,226 百万円 |
| 機械及び装置 | 32 百万円 | 77 百万円 |
| 土地 | 778 百万円 | 876 百万円 |
| 合 計 | 1,900 百万円 | 2,179 百万円 |
| 3. 保証債務(金融機関からの借入金に対する保証) | | |
| 新ダイワ農林機械販売協同組合 従業員(住宅資金等) | (当 期) 650 百万円 322 百万円 | (前 期) 800 百万円 348 百万円 |
| 合 計 | 972 百万円 | 1,148 百万円 |
| 4. 連結期末日満期手形 | | |
| 受取手形 | (当 期) 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日を持って決済処理をしております。なお、当期末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。 15 百万円 | (前 期) 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日を持って決済処理をしております。なお、当期末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。 19 百万円 |

【連結損益計算書関係】

販売費及び一般管理費の主要な費用

| | | |
|--------------|--------------------|--------------------|
| 従業員給料手当 | (当 期) 1,816 百万円 | (前 期) 1,816 百万円 |
| 従業員賞与 | 343 百万円 | 483 百万円 |
| 貸倒引当金繰入額 | 103 百万円 | 14 百万円 |
| 退職給付費用 | 183 百万円 | 132 百万円 |
| 役員退職給与引当金繰入額 | 18 百万円 | 21 百万円 |

【連結キャッシュ・フロー計算書関係】

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載している科目の金額との関係

| | | |
|-----------|--------------------|------------------|
| 現金及び預金勘定 | (当 期) 1,204 百万円 | (前 期) 988 百万円 |
| 計 | 1,204 百万円 | 988 百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 1,204 百万円 | 988 百万円 |

(リース取引関係)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(金額単位：百万円)

| | (当 期) | | | (前 期) | | |
|-----------|-------------------|--------------------|-------------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| | 取 得 価 額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相当額 | 取 得 価 額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相当額 |
| 機械装置及び運搬具 | 491 | 259 | 232 | 493 | 242 | 251 |
| 工具・器具及び備品 | 412 | 209 | 203 | 274 | 152 | 122 |
| 合 計 | 904 | 468 | 435 | 768 | 394 | 374 |

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占めるその割合が低いため、「支払利子込み法」により算定しております。

2. 未経過リース料の期末残高相当額

| | (当 期) | (前 期) |
|-------|---------|---------|
| 1 年 内 | 132 百万円 | 108 百万円 |
| 1 年 超 | 303 百万円 | 266 百万円 |
| 合 計 | 435 百万円 | 374 百万円 |

なお、未経過リース料の期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産期末残高等に占めるその割合が低いため、「支払利子込み法」により算定しております。

3. 支払リース料及び減価償却費相当額

| | (当 期) | (前 期) |
|----------|---------|---------|
| 支払リース料 | 132 百万円 | 122 百万円 |
| 減価償却費相当額 | 132 百万円 | 122 百万円 |

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券で時価のあるもの

| | 取得 価額 | (当期) 連結 貸借対照表 計上額 | | 差額 | (金額単位:百万円) (前期) 連結 貸借対照表 計上額 | | |
|--------------------------|----------|----------------------------|----------|-------|--|----------|----|
| | | 取得 価額 | 取得 価額 | | 差額 | 取得 価額 | 差額 |
| (連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの) | | | | | | | |
| 株式 | 243 | 274 | 31 | 454 | 525 | 71 | |
| 債券 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |
| 小計 | 243 | 274 | 31 | 454 | 525 | 71 | |
| (連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの) | | | | | | | |
| 株式 | 606 | 558 | 48 | 1,025 | 788 | 237 | |
| 債券 | | | | | | | |
| その他 | 100 | 68 | 32 | 100 | 79 | 20 | |
| 小計 | 706 | 626 | 80 | 1,125 | 868 | 257 | |
| 合計 | 949 | 900 | 49 | 1,578 | 1,392 | 186 | |

(注) 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について 270 百万円減損処理を行っております。

なお、下落率が 30～50%の株式の減損にあたっては、個別銘柄毎に、当連結会計期間の下落率の平均が 30%を超えるものについては減損処理を行っております。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

| | 売却額 | (当期) 売却益の 合計額 | | 売却損の 合計額 | (金額単位:百万円) (前期) 売却益の 合計額 | | |
|--|-----|---------------------|-------------|-------------|-----------------------------------|-------------|-------------|
| | | 売却額 | 売却益の 合計額 | | 売却額 | 売却益の 合計額 | 売却損の 合計額 |
| | | | | | 55 | 2 | |

3. 時価のない有価証券の主な内容及び連結貸借対照表計上額

| その他の有価証券 | 非上場株式 | (当期) 269 百万円 | (前期) 260 百万円 |
|----------|-------|-----------------|-----------------|
| | | | |

(デリバティブ取引)

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益

| 種 類 | | 通貨関連 | | | | (金額単位：百万円) | | | |
|-----------|----------------|------|-----------|-----|------|---------------|-----------|----|------|
| | | 当 期 | | 時価 | 評価損益 | 前 期 | | 時価 | 評価損益 |
| | | 契約額等 | うち 1年超 | | | 契約額等 | うち 1年超 | | |
| 市場取引以外の取引 | 為替予約取引 | | | | | | | | |
| | 売 建 米ドル | 931 | | 989 | 58 | | | | |
| | 買 建 米ドル | 981 | | 972 | 9 | | | | |
| | オプション取引 | | | | | | | | |
| | 売 建 コール 米ドル | | | | | 1,764 (23) | | 48 | 24 |
| | 買 建 プット 米ドル | | | | | 490 (23) | | 15 | 8 |
| | スワップ取引 | | | | | | | | |
| | 受取円・支払米ドル | 444 | 74 | 27 | 27 | | | | |
| 合 計 | | | | | 76 | | | | 32 |

(注) 1. 時価及び評価損益は金融機関から提示された価格によっております。

2. 上記通貨オプション取引の契約額の()内の金額はオプション料の連結貸借対照表計上額であり、それに対応する時価及び評価損益を記載しております。

3. ヘッジ会計を適用されているデリバティブ取引は、注記の対象から除いております。

金利関連

該当事項はありません。

なお、金利スワップ取引を行なっておりますが、ヘッジ会計を適用しておりますので注記の対象から除いております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。なお、国内連結子会社は、退職給付制度を採用しておりません。

また、海外連結子会社は、確定拠出型の年金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

| | (当期) | (前期) |
|--------------------------|-------|-------|
| イ. 退職給付債務 | 5,620 | 4,884 |
| ロ. 年金資産 | 3,168 | 3,414 |
| ハ. 未積立退職給付債務(イ+ロ) | 2,453 | 1,469 |
| ニ. 会計基準変更時差異の未処理額 | 617 | 694 |
| ホ. 未認識数理計算上の差異 | 2,155 | 826 |
| ヘ. 未認識過去勤務債務(債務の減額) | 302 | 67 |
| ト. 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ+ヘ) | 17 | 15 |
| チ. 前払年金費用 | 17 | |
| リ. 退職給付引当金(ト-チ) | | 15 |

(注) 厚生年金基金の代行部分を含めて記載しております。

3. 退職給付費用に関する事項

| | (当期) | (前期) |
|--------------------------|------|------|
| イ. 勤務費用 | 340 | 341 |
| ロ. 利息費用 | 171 | 162 |
| ハ. 期待運用収益 | 181 | 250 |
| ニ. 従業員掛金拠出金 | 53 | 48 |
| ホ. 会計基準変更時差異の費用処理額 | 77 | 77 |
| ヘ. 数理計算上の差異の費用処理額 | 55 | |
| ト. 過去勤務債務の費用処理額 | 22 | 5 |
| チ. 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ+ト) | 387 | 278 |

(注) (当期)

上記退職給付費用以外に、割増退職金 122 百万円支払っており、販売及び一般管理費ならびに製品製造原価として計上しております。

(前期)

上記退職給付費用以外に、割増退職金 8 百万円支払っており、販売及び一般管理費ならびに製品製造原価として計上しております。

4. 退職給付債務の計算の基礎に関する事項

| | (当期) | (前期) |
|-------------------|--------|--------|
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 | 期間定額基準 |
| ロ. 割引率 | 2.5% | 3.5% |
| ハ. 期待運用収益率 | 5.3% | 6.6% |
| ニ. 過去勤務債務の額の処理年数 | 15年 | 15年 |
| ホ. 数理計算上の差異の処理年数 | 15年 | 15年 |
| ヘ. 会計基準変更時差異の処理年数 | 10年 | 10年 |

5. 当期より退職給付信託を設定したことにより退職給付引当金から以下の年金資産の金額が相殺され、前払年金費用が計上されております。

(当期)

| | 退職給付引当金 (年金資産控除前) | 退職給付信託の 年金資産 | 前払年金費用 (純額) |
|--------|----------------------|-----------------|----------------|
| 厚生年金基金 | 103 百万円 | 120 百万円 | 17 百万円 |
| 合計 | 103 百万円 | 120 百万円 | 17 百万円 |

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳の注記

(当期)

| | |
|------------------|------------------|
| 繰延税金資産 | |
| 貸倒引当金損金算入限度超過額 | 106 百万円 |
| 賞与引当金損金算入限度超過額 | 18 百万円 |
| 繰越欠損金相当額 | 389 百万円 |
| 退職給付引当金 | 42 百万円 |
| 未払事業税否認 | 0 百万円 |
| 退職給付信託(有価証券) | 164 百万円 |
| 役員退職給与引当金損金付不算入額 | 51 百万円 |
| 製品保証等の未払費用 | 48 百万円 |
| 棚卸評価損 | 49 百万円 |
| 未実現利益 | 94 百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 20 百万円 |
| その他 | 23 百万円 |
| <u>繰延税金資産合計</u> | <u>1,005 百万円</u> |
| 繰延税金負債 | |
| 圧縮記帳積立金 | 53 百万円 |
| 退職給付引当金(信託) | 49 百万円 |
| 退職給付信託(有価証券)評価損 | 114 百万円 |
| その他 | 16 百万円 |
| <u>繰延税金負債合計</u> | <u>232 百万円</u> |
| <u>繰延税金資産の純額</u> | <u>774 百万円</u> |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

当期は税金等調整前当期純損失を計上しており、課税所得も発生していないため、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異原因の記載を省略しております。

(セグメント情報)

1. 事業の種類別セグメント情報

当社グループにおける生産品の大半は当社の千代田工場において生産し、販売については単一組織で販売活動を行っており、事業の種類ごとに資産及び損益の状況を把握することが困難であるため、事業の種類別セグメント情報は作成していません。

2. 所在地別セグメント情報

(1) 当期(13.4.1~14.3.31)

(単位:百万円)

| | 日本 | 米国 | 計 | 消去 | 連結 |
|------------------|--------|-------|--------|----------|--------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 11,825 | 6,529 | 18,354 | | 18,354 |
| (2) セグメント間の内部売上高 | 3,980 | | 3,980 | (3,980) | |
| 計 | 15,804 | 6,529 | 22,334 | (3,980) | 18,354 |
| 営業費用 | 16,042 | 6,503 | 22,545 | (4,170) | 18,375 |
| 営業利益及び営業損失() | 237 | 26 | 211 | 190 | 21 |
| 資産 | 15,385 | 4,501 | 19,886 | (2,234) | 17,652 |

(注) 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

(2) 前期(12.4.1~13.3.31)

(単位:百万円)

| | 日本 | 米国 | 計 | 消去 | 連結 |
|------------------|--------|-------|--------|----------|--------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 13,192 | 6,595 | 19,786 | | 19,786 |
| (2) セグメント間の内部売上高 | 3,947 | | 3,947 | (3,947) | |
| 計 | 17,139 | 6,595 | 23,734 | (3,947) | 19,786 |
| 営業費用 | 16,784 | 6,479 | 23,263 | (4,402) | 18,861 |
| 営業利益 | 355 | 116 | 471 | 454 | 926 |
| 資産 | 17,323 | 4,072 | 21,395 | (2,879) | 18,516 |

(注) 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

3. 海外売上高

(1) 当期(13.4.1~14.3.31)

(単位:百万円)

| | 北米 | 中南米 | 欧州 | その他 | 合計 |
|----------------------|-------|-------|-----|-----|--------|
| 海外売上高 | 4,882 | 1,305 | 775 | 539 | 7,501 |
| 連結売上高 | | | | | 18,354 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合(%) | 26.6 | 7.1 | 4.2 | 3.0 | 40.9 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 各区分に所属する主な国又は地域

・北米.....米国、カナダ ・中南米.....コロンビア、ブラジル ・欧州.....フランス、イタリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(2) 前期(12.4.1~13.3.31)

(単位:百万円)

| | 北米 | 中南米 | 欧州 | その他 | 合計 |
|----------------------|-------|-------|-------|-----|--------|
| 海外売上高 | 4,978 | 1,259 | 1,053 | 566 | 7,855 |
| 連結売上高 | | | | | 19,786 |
| 連結売上高に占める海外売上高の割合(%) | 25.2 | 6.4 | 5.3 | 2.8 | 39.7 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 各区分に所属する主な国又は地域

・北米.....米国、カナダ ・中南米.....コロンビア、ブラジル ・欧州.....フランス、イタリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(生産、受注及び販売の状況)

1. 生産実績

当期における生産実績を商品区分ごとに示すと、次のとおりであります。

(金額単位：百万円)

| | 当 期 | | 前 期 | | 増 減 | |
|-------------|--------|-------|--------|-------|-------|------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 増減率 |
| | | % | | % | | % |
| 農・林業用機械 | 6,294 | 53.7 | 7,305 | 55.3 | 1,011 | 16.1 |
| 建設・土木・鉄工用機械 | 5,364 | 45.8 | 5,817 | 44.0 | 453 | 8.4 |
| 部品 | 60 | 0.5 | 96 | 0.7 | 35 | 58.6 |
| 合 計 | 11,718 | 100.0 | 13,217 | 100.0 | 1,499 | 12.8 |

(注) 上記金額は、主に主要代理店卸値によっております。

2. 受注状況

当社グループは原則として受注生産は行わず、過去の販売実績と将来の予想に基づいて、見込生産を行っております。

3. 販売実績

当期における販売実績を商品区分ごとに示すと、次のとおりであります。

(金額単位：百万円)

| | 当 期 | | 前 期 | | 増 減 | |
|-------------|---------|-------|---------|-------|-------|------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 増減率 |
| | | % | | % | | % |
| 農・林業用機械 | 7,711 | 42.0 | 8,489 | 42.9 | 778 | 9.2 |
| 建設・土木・鉄工用機械 | 6,135 | 33.4 | 6,638 | 33.5 | 502 | 7.6 |
| 部品 | 4,039 | 22.0 | 4,177 | 21.1 | 138 | 3.3 |
| その他 | 469 | 2.6 | 484 | 2.5 | 15 | 3.1 |
| 総 合 計 | 18,354 | 100.0 | 19,786 | 100.0 | 1,433 | 7.2 |
| 農・林業用機械 | 2,200 | 20.3 | 2,618 | 21.9 | 418 | 16.0 |
| 建設・土木・鉄工用機械 | 6,009 | 55.4 | 6,574 | 55.1 | 565 | 8.6 |
| 部品 | 2,175 | 20.0 | 2,255 | 18.9 | 80 | 3.6 |
| その他 | 469 | 4.3 | 484 | 4.1 | 15 | 3.1 |
| 国 内 合 計 | 10,853 | 100.0 | 11,931 | 100.0 | 1,078 | 9.0 |
| 農・林業用機械 | 5,511 | 73.5 | 5,871 | 74.7 | 360 | 6.1 |
| 建設・土木・鉄工用機械 | 126 | 1.7 | 63 | 0.8 | 63 | 99.6 |
| 部品 | 1,864 | 24.8 | 1,922 | 24.5 | 58 | 3.0 |
| 海 外 合 計 | 7,501 | 100.0 | 7,855 | 100.0 | 354 | 4.5 |
| (海外売上比率) | (40.9) | | (39.7) | | | |